

2010年1月8日

保護者の皆様へ

平成20年度の学校教育自己診断のご報告

大阪産業大学附属高等学校
校長 平岡 伸一郎

厳寒の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、感謝しております。

1, 平成20年度授業アンケートの概略

昨年3学期に取り組んだ授業アンケートは、高校3年生は既に卒業式を終えていましたので、1年生、2年生を対象に行いました。学校としては、その結果を集計し、さらに細かく教科ごとにまとめ、一人ひとりの教員に自らの研鑽の糧となるよう担当クラスごとの結果を返しています。

教科ごとの特徴をさらに細かく見る必要はありますが、授業アンケートの結果は、本校生徒が「授業をどのようにとらえているのか」をよく表しているものになっていると考えます。

「授業は分かりやすいですか」「授業は、プリント教材や色チョークでの板書など工夫されていますか」との問いには、「どちらかという」というものを含めると8割前後の生徒が肯定的な回答をしています。

しかし一方で、「この教科の勉強を日常していますか」との問いには、「家で予習・復習している」との回答は1割前後しかなく、それが「この教科の内容は理解できますか」との問いに、「だいたい理解できる」というものを含めると7割前後の生徒が「理解できる」としながら、「半分ほどしか理解できない」「ほとんど理解できない」とする生徒が25%から31%いることになっていると言えます。

「生徒が主体的に学習にどのように取り組めるようにしていくのか」を、本校の大きな課題としてとらえており、引き続き、保護者の方とともに取り組んでいこうにしたいと考えています。

2, 診断結果についての見解と対応

授業ルールや時間について、ほとんどの生徒が遵守していることが伺えるが、さらにより多くの生徒が授業ルールや時間について遵守するよう、教員が授業へ積極的に取り組むことで改善していきたいと考えています。

残念なことに、「教科への理解ができなくなった時期」として、高校1年、2年の段階が多いことが判明しました。この点に関して、予習および復習の徹底、定期的な課題提出を生徒に課すことで学習習慣をつけさせる指導を恒常的に行うとともに、定期考査後の補習授業などで理解できなかったことを復習させたいと考えています。